

プーチン「ウクライナでのマレーシア旅客機悲劇には徹底的な調査を」

July 18, 2014

RT (Russia Today)



(2014年7月17日、ドネツク地区 Grabovo 居住地の、マレーシア航空便ボーイング 777 墜落現場に立つ武装した親ロシア分離主義者)

「東部ウクライナでのマレーシア航空機の墜落は、徹底的かつ客観的に調査されなければならない」と、プーチン・ロシア大統領は声明を発表した。「この悲劇は、ウクライナでの武力衝突が緊急に、平和的解決を必要としていることを強調するものだ。」

プーチンの声明が出たのは、彼がオランダの首相 **Mark Rutter** に接触し、この惨事でのオランダの同胞の死に対する弔意を述べた後のことだった。

木曜日、東部ウクライナの戦闘地域で撃ち落とされたと思われる、この不運な航空便の乗客の大多数は、オランダの人々だった。

これに先立って、ウクライナを含む、前ソヴィエト共和国のほとんどすべての民間航空機事故の調査を担当する、ロシアに本拠をおく国際団体、「国家間航空委員会」(IAC)は、国連の団体である「国際民間航空組織」(ICAO)の後援のもとに、この事件を調査するための国際調査団を結成することを呼びかけた。

IACは、現在、ウクライナのドネツク地区で回収されつつあるMH17のフライト・レコーダーは、このような団体に手渡されるべきだと言っている。

これまでのところ、この機の2つのフライト・レコーダーが、現在、民兵団の支配している地域で回収されたもようである。民兵団幹部の一部は、キエフがこの事件を正当に調査することは期待できないので、モスクワに手渡すつもりだと言っている。

このボーイング 777 の墜落原因の究明は、政治的な意味合いをもつものにならざるをえない。この飛行機が、別の原因で墜落したのではなく、撃墜されたという公式の確認は何もない。しかし両側がすでに罪のなすりあい始めている。

ウクライナ軍もキエフと戦っている民兵団も、飛行機を撃ったことを否定しており、1万メートルの高さを飛んでいる航空機を撃ち落とす能力は、もっていないと言っている。



政治家のある者と西側のメディアは、このマレーシア航空機の悲劇の責任はロシアにこそあると主張している。彼らは、モスクワがミサイル発射台を供給し、ウクライナの民兵団がこれを使って飛行機を撃墜した可能性があると述べている。

キエフは過去数日間、ロシア軍がいくつかの直接攻撃を、彼らの領土で行ったと非難している。たとえば空爆がそうだと述べているが、これはウクライナ軍によるものだと民兵団は報告している。またウクライナ軍機を撃墜したと述べているが、これは民兵団によれば彼ら自身の仕業である。ロシア軍はこうした非難を、馬鹿ばかしいものだと述べている。

ボーイング 777 の墜落が報告されて数時間後、キエフは、民兵団幹部と彼らを操るロシア

軍との間の、明らかに民兵団がある民間機を撃墜する議論をしている交信の、傍受と称するものを発表した。民兵側はこの記録を“しろうとの作ったニセモノ”と断定した。

マレーシア航空 17 便には、アムステルダムからクアラルンプールへ向かう、283 人の乗客と 15 人の乗組員の、300 人近い人々が搭乗していた。オランダの旅行客とマレーシアの乗組員に加えて、オーストラリア人、インドネシア人、その他数か国の市民がいた。生存者は一人もいない。